

2級の出題内容

常用漢字のすべて

平成22年度11月30日付で常用漢字が2136字に増えました。2級では、そのすべてが対象漢字となり、高校卒業、大学、一般程度のレベルです。

常用漢字表の改定によって新たに加わった常用漢字196字はすべて2級配当漢字となり、それまで共通だった2級・準2級配当漢字は準2級単独の配当漢字になりました。

今後の2級試験でも、2級配当漢字だけでなく、準2級配当漢字から少なからず出題されることが予想されます。

2級・準2級配当漢字が重要

最初にも書きましたが、常用漢字のすべてが「読み」と「書き」の問題に出題されます。特に重要なのは「2級配当漢字」ですが、「準2級配当漢字」（333字）を使った問題も多く出題されると思われます。

また、2級配当漢字には、例えば「叱る」という漢字のように、一見簡単なようで意外に書けないものもあります。しっかりと確認しておきましょう（P.128に「2級配当漢字表」を収録）。

読み・書き・部首

2級の出題領域は、おおまかにいって、「読み」「書き」「部首」の三つに分類できます。これらをもう少し細かくすると、次のようになります。表の下の段の「読み・書き」とは、領域としては「読み」も「書き」も含まれるという意味です。

出題内容		領域
①短文中の漢字の読み(音・訓)	読み	読み
②部首	部首	部首
③熟語の構成	読み	読み
④四字熟語	読み・書き	読み・書き
⑤対義語・類義語	読み・書き	読み・書き
⑥同音・同訓異字	読み・書き	読み・書き
⑦誤字訂正	読み・書き	読み・書き
⑧漢字と送りがな	読み・書き	読み・書き
⑨短文中の書取り(音・訓)	書き	書き

高校で習う読みに注意

小学校や中学校で習う漢字のなかに、高等学校で初めて習う読みがあります（「桜」を「オウ」、「行」を「アン」と読むなど）。これらは2級の「読み」の領域で出題率が高くなりますので注意を要します（P.146）148参照）。

また、「部首」の問題も、2級と準2級配当漢字から多く出題されると予想されます。「書き」の領域では、常用漢字のすべてから出題されますが、問題箇所「2級・準2級配当漢字」が読めなくては答えが書けないという出題傾向が多く見られます。

このように2級では、領域を問わず「2級・準2級配当漢字」が重要な位置を占めています。このことをよく心得て学習しておくことが肝要です。

級別出題内容（一例）

○印は上欄と同じ
9・10級は省略

対象漢字数	短文 中の 書 取 り	誤 字 訂 正	異 同 音 ・ 同 訓 字	三・四 字 熟 語	対 義 語	送 り が な	漢 字 と	熟 語 の 構 成	部 首 ・ 部 首 名	漢 字 識 別	筆 順 ・ 画 数	短 文 中 の 漢 字 の 読 み	内 容 級
四四〇字	○		音訓判断		対義語	送りがな			の同じ部首漢字		○	○	8級
六四〇字	○		○	二字熟語	○	送りがな	漢字と		○	え漢らび字	○	○	7級
八二五字	○		訓同音・異字同	三字熟語	対義語	○		構成の熟語	部部首名・	○	○	○	6級
一、〇〇六字	○		○	四字熟語	○	○	○	○	○	○	○	○	5級
一、三三二字	○	誤字訂正	○	典拠のある四字熟語	○	○	○	○	○	漢字識別		○	4級
一、六〇七字	○	○	○	四字熟語	○	○	○	○	部首	○		○	3級
一、九四〇字	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	準2級
二、三三六字	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	2級

三約 〇〇〇字	文 章 題 (書き・読み)	故 事 こ と わ ざ	四 字 熟 語	訓 同 音 ・ 異 字 同	誤 字 訂 正	国 字	旧 字 体	当 熟 て 字 字 訓	書 取 り	読 み	準 1 級
六約 〇〇〇字	○	○	○	○	○	外 常 用 漢 字 の 読 み	書 き 換 え	一 熟 語 字 訓 読 み	○	国 字 を 含 む	1級

2級の採点基準

の 筆画を正確に

解答の漢字は、筆画（点や画）を正しく、明確に書かなくてはなりません。くずした字体や、乱雑な書き方は採点の対象外となります。

一画一画、はね、とめる、離す、続けるなども正確に書きましょう。

の 教科書体が基準

字体としては、小学校の教科書に使用されている文字の字体が理想的です。（本書の解答は教科書体を使用）
2級では、原則として常用漢字の旧字体、常用漢字表にない漢字などは正答と認められません。

教科書体

逸之衷

明朝体
みんしょうたい

逸之衷

筆画を正しく

はねる とめる はう 続けない 点つき
亨 岬 叔 勾 浦

ただし、例外として「漢検」で正答と認められる字体（許容字体）があります（例：葛と葛、喩と喩など）。どちらも正解になりますが、巻末の2級配当漢字表で違いを確認してください。

こんな字はバツ

●略字

傘 閑 江

●くせ字

拐 尚 筒

●旧字体

棧 遞 廢

の その他の採点基準

略字やくせ字も、漢字検定ではバツなので、十分に注意しましょう。

音訓

音読み・訓読みは、常用漢字音訓表が採点の基準になっています。2級では、常用漢字音訓表以外の読みは正答と認められません。
送りがな 「送り仮名の付け方」（内閣告示）によります。

筆順

筆順は、「筆順指導の手引」が基準になっています。

部首

部首は、参考書によって多少異なりますが、（財）日本漢字能力検定協会の定めによっています（p.128～143に掲載）。

合格基準

二〇〇点満点で、八割の正解が合格点の目安となっています。一六〇点以上取れば合格です。

解答用紙

本試験での解答は、問題文とは別の解答用紙に記入します。2級の解答は記述式が多く、マークシート方式もあります。

2級の実施要項



だれでも受検できる

受検資格 小学校、中学校、高等学校、専門学校などの児童、生徒から大学生、社会人まで、だれでも受検できます。

申込方法 インターネット、取扱書店、取扱コンビニなどの申込方法があるので自分の好きな方法を選んで申し込みましょう。学校や企業などで志願者が一定以上まると団体受検ができます。申込方法は個人の場合と変わります。団体受検では条件を満たせば団体の学校や会社の手で受検することができます。

検定料 検定料は変わることがあるので、漢字検定の広告や問合せ先のホームページなどを見てください。

申込期間 検定日の約三か月前から約一か月前まで。締切日までに願書を送らないと無効になるので十分注意しましょう。

申込後の変更 申し込みをしたあとで受検希望の級や受検会場を変更

したり、キャンセルしたりすることはできないので気をつけましょう。



全国で、定期的に実施

検定日 定期的に実施しています。検定協会に問い合わせてください。

検定会場 全国主要都市。願書に記載されている検定会場から自分の希望する会場を選択します。

検定時間 六〇分。開始時間の異なる級を選べば、二つ以上の級を受検することができます。

合否の発表 検定日から所定の日数後、合格者には合格証書、合格証明書、検定結果通知などが、また不合格者には検定結果通知が郵送されます。

問合せ先 財団法人日本漢字能力検定協会の本部（〒600—8585

京都市下京区烏丸通松原下る五条烏丸町三九八 電話〇七五—三五二—八三〇〇）および東京事務局（〒100—0004 東京都千代田区大手町二—一 大手町野村ビル 電話〇三—五二〇五—〇三三三）。

検定日の注意事項

- ① 受検票を忘れず持参しましょう。受検中、受検票を机の上におかなくてはなりません。
- ② 検定会場へ自動車やバイクで行くのを禁止している会場が多いので事前に確認しましょう。
- ③ HBかBの鉛筆、または濃いシャープペンシルを持参しましょう。鉛筆は二本、また鉛筆がけずれる簡単なものと消しゴムを用意すると安心です。ボールペン、万年筆などの使用は認められません。
- ④ 検定開始の一五分前に検定会場に入るので、遅れないようにしましょう。
- ⑤ 検定中は携帯電話の電源を必ずOFFにしておきます。
- ⑥ 検定が終わると、後日全員に標準解答が郵送されます。自分が書いた答えを覚えていううちに標準解答で自己採点をしましょう。
- ⑦ 検定が終わっても受検票は捨てないで、合否通知が届くまで大切に保存しましょう。